2 三木市市街地の道路整備について

質 北播磨は交通の要衝として、兵庫県の北と南、兵庫と日本、日本と世界とをつなぐゲートとしての使命を持った地域だ。その南に位置する三木市内の道路整備は非常に重要で現在、山陽自動車道の三木東IC－三木小野IC間におけるスマートIC計画、東播磨道の整備が進められている。

さて市内には渋滞交差点が5ヵ所あり、県では県道三木宍粟線の高木末広バイパスの整備を進めている。これより、県道三木宍粟線の本町交差点から福有橋、神戸電鉄三木駅周辺の交通混雑や渋滞緩和が期待でき、一刻も早い工事完了を期待している。

また、私が最も課題と考えるのは、県道神戸三木線の混雑・渋滞である。特に、神戸電鉄粟生線と並行する、緑が丘駅付近から志染駅付近までの区間が慢性的な渋滞を繰り返し、それを避けようとする車両が周辺道路に迂回することで、更なる渋滞を引き起こすという悪循環を招いている。中心市街地のにぎわいの創出やまちの再生を図り、三木市の元気で活気あるまちづくりを実現していくためには、現状の渋滞を解消し、三木市市街地の骨格を形成する道路整備が必要と考える。

そこで、県道三木宍粟線高木末広バイパスの整備と県道神戸三木線の渋滞解消に向けた取組について、当局のご所見を伺う。

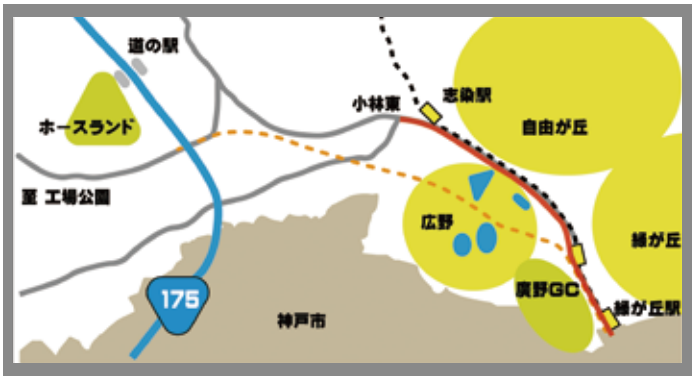
答 ■ **県土整備部長（糟谷昌俊）**

県道三木宍粟線高木末広バイパスについて、事業区間のうち、北側の美濃川架橋区間では、平成30年度に橋梁上部工工事に着手し、残る右岸側の取りつけ部の工事などを行い、平成31年度の供用を目指す。南側の県道加古川三田線までの区間については、未買収用地の用地交渉を進め、早期に全線供用できるよう事業推進に努める。

県道神戸三木線は、2車線改良済みであるものの神戸電鉄と並行する区間や志染駅前交差点、小林東交差点で慢性的に渋滞が発生している。渋滞の抜本的対策には、現道の南側に並行して計画されている都市計画道路神戸三木線の整備が有効であると考えられるが、約40年前に決定された計画であることから、まずは周辺道路の整備状況や交通量、将来のまちづくりの考え方等を踏まえた幅員や線形の見直しが必要であると考える。このため、平成30年度から道路計画の見直しと併せて、優先的に整備する区間の選定についても三木市とともに検討を開始する。

今後とも市の協力を得ながら、三木市のまちづくりを支える幹線道路網の整備を推進していく。

◆県道神戸三木線周辺地図



■■■■■■■■■■■■：都市計画道路神戸三木線

3 災害時要援護者支援について

質 災害時要援護者の命を守るためには、避難支援等関係者への情報提供や個別支援計画マイプランの作成が不可欠だが、個人情報問題もあり進んでいない。これらの課題解決には、地域住民に災害時要援護者の命を地域全体で守るという意義をいかに理解して頂くかが重要である。また、認知症高齢者に対する支援も今後の課題だ。高齢化の進展に伴う要介護認定者数の増加傾向を踏え、これまで以上の取り組みが必要だと考えるが、当局のご所見を伺う。

答 ■ **防災監（大久保博章）**

災害時要援護者支援について、本県では昨年改定した支援指針に基づき市町に対策の強化を促し、要援護者名簿の情報共有を進める市町条例等の措置が進んでいる。市町や自主防災組織等による計画策定等を促進するため、手引や優良事例集、福祉避難所運営マニュアル等の提供も行い、避難用の車椅子等の資機材購入費の助成や専門家派遣等による地域での要援護者訓練の実施も支援をしている。

認知症高齢者等に対しては、家族や地域住民による支援と福祉専門職との連携が不可欠で、来年度は新たに、まず市町職員や福祉専門職を対象とする人材育成研修、また行政、自主防災組織、福祉事業所等による連携会議や避難支援者等を対象とする福祉理解の研修、さらに防災と福祉の連携促進シンポジウムを行う。また、県・市町合同防災訓練等でも、福祉避難所の設置や支援者による移送等、要援護者への配慮に重点を置く。県、市町、地域、支援団体等が一丸となって、要援護者の安全・安心の確保を推進していく。

4 特別支援学校における職業教育・キャリア教育の推進について

質 少子・高齢化社会の到来は、障害者の就労や社会進出を促す大きな契機でもある。就労に向けた専門的な職業教育が受けられる特別支援学校高等部において対応できる職種を増やしてはどうか。また特別支援学校小学部から高等部までの継続的なキャリア教育も重要であると考えるが、当局のご所見を伺う。

答 ■ **教育長（高井芳朗）**

県は就職支援推進会議を設け、職業教育・キャリア教育を推進している。県立特別支援学校では、各学校ごとにキャリア教育発達段階表を作り、それぞれ発達段階に応じて一貫したキャリア教育を実施し、また児童生徒の個別の指導計画を担任と保護者の面談による意見交換を通じて作成をし、学習指導に活用している。

高等部においては、清掃、接客といった職務を企業から専門的な助言を得ながら作業学習を進め、企業と協働で開発した技能検定を実施をし、企業関係者から好評を頂いている。今年度は雇用が増加傾向に物流、品出しの部門を開発した。更に、生徒が希望の就職先を選択できるよう、新たな職場を開拓するために、県内に2名の就職支援コーディネーターを配置をしている。これらの結果、県立特別支援学校高等部卒業生の一般就労率は、平成25年度末の19.3％から、28年度には26.6％まで向上した。西神戸高等特別支援学校では、学校内での職業教育と企業における体験学習を両輪としたディアルシステムを構築し、企業や地域と連携した現場実習を多く導入している。これらの新しい取組の成果を今後のキャリア教育の推進につなげていく。